

リーダーシップ・プログラム 第6期(2009年度)活動報告

# 自らのリーダーシップを考える

第6期リーダーシップ・プログラム(北城 恪太郎委員長)が2009年7月から2010年4月にわたり行われた。さまざまな業界から次世代を担うリーダー25名が参加。その活動内容を報告する。



リーダーシップ・プログラムは、会員所属企業の若手経営者で本会に未入会の方を対象にした、次世代のリーダー育成のためのプログラムである。さまざまな業界・業種から、第一線で活躍する多くの取締役や執行役員が参加。現トップ・リーダー

からの講義やディスカッションなどが行われた。

結成式では北城恪太郎委員長から「この場を通じて、自らがどういう経営者になるのかという、自分なりの経営者像をつくり上げてほしい」とあいさつがあった。



実施日程とテーマ (2009年7月22日(水)～2010年4月22日(木))

\* 役職は開催当時

第1回	7月22日(水)	結成式
第2回	8月28日(金) ～30日(日)	「私が考えるリーダーシップと経営ビジョン」/北城 恪太郎 委員長(日本アイ・ビー・エム 最高顧問、経済同友会 前代表幹事) 「変革のためのリーダーシップ」/桜井 正光 代表幹事(リコー 取締役会長執行役員) 「リーダーの役割」/個人発表
軽井沢合宿		
第3回	10月14日(水)	「政権交代の本質とは何か」/清水 真人 氏(日本経済新聞社 編集局経済解説部 編集委員)
第4回	10月29日(木)	「新世紀の経営」/牛尾 治朗 氏(ウシオ電機 取締役会長、経済同友会 元代表幹事)
第5回	11月18日(水)	「企業内ベンチャーで本体を活性化」/斎藤 敏一 氏(ルネサンス 取締役会長執行役員)
第6回	11月30日(月)	「企業とは」/宮内 義彦 氏(オリックス 取締役兼代表執行役会長)
第7回	1月19日(火)	「日本企業の経営者の役割 企業再生の現場経験から」/小城 武彦 氏(丸善 取締役社長)
第8回	1月28日(木)	「『国鉄改革』『りそな再生』から学んできた教訓」/細谷 英二 氏(りそなホールディングス 取締役兼代表執行役会長)
第9回	2月10日(水)	「グローバル競争を勝ち抜くリーダーシップ」/長谷川 閑史 副代表幹事(武田薬品工業 取締役社長)
第10回	2月26日(金) ～28日(日)	「経営改革とトップのリーダーシップ」/富山 和彦 氏(経営共創基盤 代表取締役CEO) 「社徳を高める経営」/有富 慶二 副代表幹事(ヤマトホールディングス 取締役会長) 「社長就任演説」/個人発表 ●グループ・ディスカッション 「わが社の経営課題について」/小島 邦夫 専務理事
宮崎合宿		
第11回	3月8日(月)	「大転換の時代 ～新しい価値を創造せよ～」/出井 伸之 氏(クオナムリープ 代表取締役、ソニー アドバイザリーボード議長)
第12回	3月24日(水)	「マーケティングとリーダーシップ」/岩田 彰一郎 副代表幹事(アスクル 取締役社長兼CEO)
第13回	4月22日(木)	●1年間の総括 「プログラムを終えて」各参加者からの総括発表 ●北城委員長からの総括

プログラム参加者

【委員長】

北城 恪太郎  
日本アイ・ビー・エム 最高顧問

【メンバー】

相木 伸一郎  
バンダイナムコゲームス 執行役員

麻生 修司  
富士ゼロックス 執行役員

稲垣 泰弘  
小松製作所 執行役員

小川 育三  
住友化学 理事

加藤 彰  
東京日産自動車販売 常務取締役

金子 美壽  
クレディセゾン 常務取締役

唐澤 範行  
アサヒビール 常務取締役

木村 亨  
東京海上日動火災保険 常務執行役員

木村 美代子  
アスマル 取締役社長

塩川 栄一  
JFEスチール 常務執行役員

芝崎 健一  
ヤマトフィナンシャル 取締役社長

関根 淳  
日本アイ・ビー・エム 執行役員

寺本 敏之  
三井住友銀行 執行役員

中野 祥三郎  
キッコーマン 執行役員

西 和彦  
日本航空 法人営業総括  
兼 東京支店副支店長兼法人センター長

原田 明久  
ファイザー 執行役員

般若 真也  
バンテック 常務執行役員

松井 健司  
フューチャーアーキテクト 執行役員

松浦 要蔵  
リコー 執行役員

松下 浩一  
大和証券 執行役員

森山 透  
三菱商事 常務執行役員

矢口 秀雄  
全日本空輸 上席執行役員

山中 茂樹  
ウシオライティング 取締役社長

米倉 英一  
伊藤忠商事 執行役員

渡邊 国夫  
野村アセットマネジメント 執行役員

以上メンバー25名、敬称略、役職は2010年4月22日現在

## 参加者の所感 ● リーダーシップ・プログラムで何を得たか



リーダーシップのあり方や実際に経験された変革への取り組み・ご苦労されたお話から、自らの担当業務における課題の明確化・悩みの解消につながる多くのヒント・アイデアをいただくとともに、情報伝達やメッセージ発信の重要性を学んだ。

講師の方々の話は、「エネルギー」と「信念」そして「苦悩」があり、自ら道を切り開き、後戻りできない決断に迫られ、そして自分にかかわる多くの人たちが幸せな人生を送るために先頭を歩く、壮絶な戦いの記録だった。

リーダーのスタイルは千差万別であることに気付いた。ただ、その核となる部分には、驚くほど普遍性があるように感じた。

リーダーとは、高い志を持ち、それに人が共感するような品格を持ち、大局観と同時に、目の前のことも確

実に実行していくことが大切であるということ、講師の貴重な体験を通したお話を聞き学ぶことができた。

最大の財産は、共に受講し、ディスカッションし、合宿も共にさせていただいた、メンバーの方々と知己を得たことだ。普段はなかなか本音で議論することができないテーマについて交わした内容は、自分の業種あるいは自分の会社の「常識」が、異なる視点から見れば「非常識」であることなど、自分の経営に対する視野を広げることに大変役立った。

講師の皆さまの実践に基づいた講話には圧倒的な説得力と真実を垣間見ることができた。どの講師の方にも共通するものは「飽くなき探究心」と「使命感」「責任感」であり、また「目標達成に向けた強い意志」だった。

成功した経営者(リーダー)の方々

の生々しい実体験のお話を通じて『理由なき成功は無い』と確信した。短期間に事業拡大をしていくには、緻密な分析と判断、愚直な行動力が必要であることを感じた。

二回にわたるプレゼンテーションの実地訓練は大変勉強になった。用意周到な準備をすること、前を向いて堂々と、できれば手振りも入れて正面左右をゆっくり見ながらすること、との指摘に注意して、自分の思いを相手に十分伝えられるようにしたい。

今でも何度も頭に浮かぶのは「経営は世の中からの預かり物。預かり物であれば私心なく経営にあたれる。私心のない経営者としての品格が大切」という言葉だ。

# リーダーには品格が大切、“明るく・楽しく・前向きに”

2009年度リーダーシップ・プログラム委員長

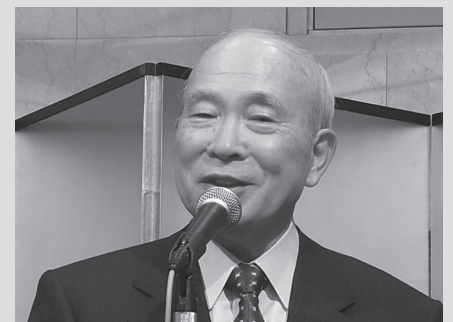
**北城 恪太郎** 経済同友会 終身幹事(前代表幹事)/日本アイ・ビー・エム 最高顧問

このプログラムは次世代のリーダー育成を目的としたものであるが、ここで言うリーダーとは、企業の社会的責任を認識し、「企業は自社の利益を追求するだけでなく、社会に貢献するために存在する」ということを理解し活動する経営者である。

第1回会合では、求められるリーダー像は環境によって異なるので、自分の価値観を土台にしながら、いろいろな方の話を聞き、自分なりのリーダーシップ・スタイルをつくり上げてほしい、という話をした。ただし自分なりのスタイルを考えると、人が付いてくるリーダーに

は、品格があり信頼できるインテグリティが必要だということは忘れてはならない。

また人に影響を与え、共感を持ってもらい、同じ方向に進んでもらうためには、どう伝えるかも非常に大事である。自分はものすごく重要なことを話したつもりでも、人はなかなか覚えていないものだ。しかし、どう伝えたかは印象に残る。自信を持って語ったのか、それとも人の受け売りのようなことを語ったのか、あるいはきれいごとを語ったのか。また、相手がどう感じているかは、相手の目を見れば分かる。だから人



の目を見て話すことが大切である。

私は明るいボスの下での仕事が気持ちよかったので、常に“明るく・楽しく・前向きに”と言ってきた。ぜひ皆さんもご自身のリーダーシップ・スタイルを考える上で意識してほしい。もちろん自分の性格と違うことは無理にはできないが、人の共感を得る要素として努力をしてみることも必要だと思う。